

～さっぽろ・消えた町角～

日本放送作家協会北海道支部長 朝倉 賢

さよなら旧豊平駅

九月、かつて札幌市街と定山溪を結んでいた電車の駅、旧豊平駅が解体された。近くここにマンションが建つのだという。このあたりのなつかしい下町風の景観も少しずつ変わっていくのだろう。

この駅を出発して定山溪へ向かう連結電車は、リンゴ園の中をひた走り、石山を過ぎたあたりから豊平川の溪流に上って上流へ向かった。到着までざっと一時間、市民にとって正に別天地の温泉の湯気が河原からもあがっていた。

人ばかりでなく、沿線の木材や鉱石を運ぶ貨物列車も走っていた。戦後、真駒内に米軍のキャンプができると、軍人専用の電車が登場した。観光客が増加すると、札幌駅と直結する線路も作られ、札幌駅に定鉄専用のプラットフォームが作られた。一番ホームのさらに南にできたせいで○番ホームと呼ばれた。

札幌の人口がどんどん増え、リンゴ園が住宅地に生まれ変わっていった。観光客よりも通勤通学客が乗客の中心になった。その頃の定鉄は札幌にとって無くてはならない足であり、その中心が豊平駅であった。

この私鉄が、マイカーの普及や路線バスの利用増でその役割を閉じたのは、一九六九年。今から三十六年前だから、憶えていたり、利用したりした人も、まだまだ沢山いらっしゃるはずだ。

豊平駅は、国道三十六号線沿いの豊平四条九丁目にあった。鉄道廃止後は「じょうてつ」本社として使われていたが、木造二階建ての駅正面の面影はそっくり残っていたし、裏手は線路こそ撤去されたものの、プラットフォームがそのまま残っていた。

今でも往時の駅前広場は残っているが、市電豊平線がここまで来ていて、その鼻先をちょいと曲げて、駅前広場に停留所があった。

定鉄と市電の客のために、三十六号線に札幌で最初の横断歩道も架けられ、今も残っていて、当時の人の流れの多さを思い出させてくれている。